



POINT 1

思・判・表

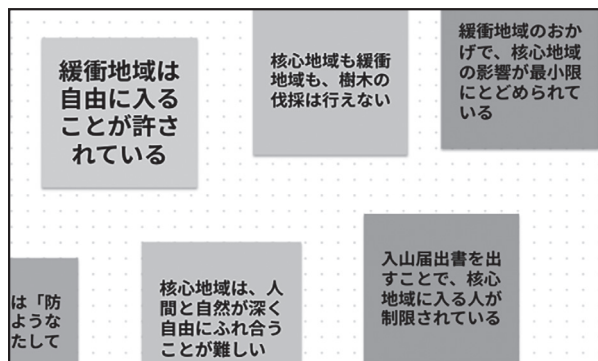
資料から読み取った情報を基に、自分の考えを表現する工夫

ICTや思考ツールといった学習ツールを活用することで、友達を考えを取り入れたり、考えを様々な形で整理したり、自分の考えが伝わるように表現を工夫したりすることができる。

国語科では、自分の考えを形成する上で、必要な情報を整理すること、伝えたいことを明確にすることが求められている。特に、高学年では、集めた情報を分類したり関係付けたりして、自分の考えが伝わるように書き方を工夫する力が必要となる。そこで、今回は「世界遺産 白神山地からの提言」を例に、資料から情報を読み取り、根拠を明らかにしながら自分の考えを表現する学習の流れを紹介したい。

1 資料から読み取った情報の交流

下の図は、Google Jamboard を使い、資料から読み取った内容を付せんに表したものである。Jamboard は、複数人で同じ画面を同時にしながら作業を行うことができる。そのため、子ども同士で情報を共有したり、他の子どもが読み取った内容をヒントに学習を進めたりすることで、情報を整理することができた。

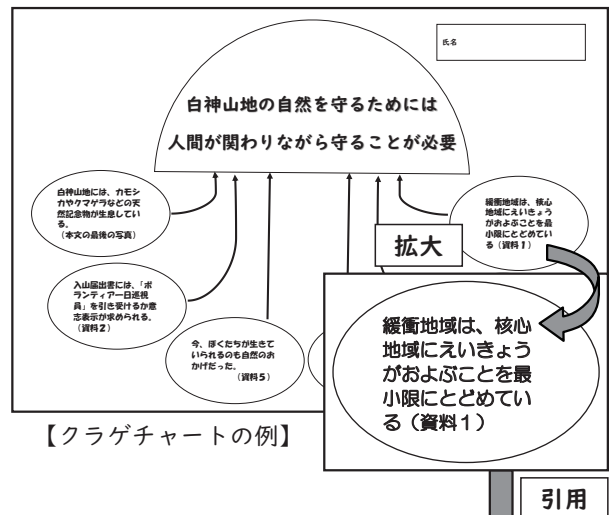


【読み取った内容をまとめた Jamboard の例】

2 資料を根拠にした考えの整理

本学習では、思考ツール「クラゲチャート」

を使用した。クラゲの頭に自分の意見を書き、クラゲの足に本文や資料から主張の根拠となる情報を記入する。複数の根拠を並列して書くことで、根拠同士の比較や関連性を視覚的に捉えやすくなり、それにより、自分の考えを整理することが可能となった。



【クラゲチャートの例】

3 条件に合わせた意見文の作成

1つ目の理由は、「人間がたやすく自然とふれ合うことができる」ことです。(資料1) 緩衝地域では、人が自由に入ることができ、ふれ合いながら自然を守るから、自然の姿が変わらないのです。緩衝地域は、核心地域にえいきょうがおよぶことを最小限にとどめていると資料にも書いています。

【子ども意見文（一部抜粋）】

クラゲチャートから、自分の意見により説得力をもたせる根拠を選択し、意見文にまとめる。また、「200字以上250字以内でまとめる」などの条件を示すことで、論理的に説明する力も高められると思われる。

識した言葉と漢字の学習活動

音更町立木野東小学校 教諭 白澤 大輔



POINT 2

知・技

実生活を意識し、確かな理解につながる学習活動の工夫

限られた時間の中で行われる漢字や言葉に関する学習の中で、子どもたちに「実生活」を意識させ、活用の場面を設けることで、確かな理解につなげる。

言葉の特徴や使い方に関する事項は、配当時間が少なく、限られた時数の中で学習するため、子どもによって定着の差が大きくなることが多い。また、新出漢字の学習は、教師が主導となり、子どもは受け身になりやすい傾向がある。言葉や漢字は、実生活に密接に関わっており、日常で活用できることが重要だと考える。そこで、実生活を意識し、子どもが学んだことを活用する場を設定することで、言葉や漢字の確かな理解につなげる取組を紹介したい。

1 子ども主導の新出漢字の学習

新出漢字を、授業の冒頭で学習する実践を多く目にする。私は、その時間を子どもたちで学び合う学習の時間にしている。

- (1) 授業冒頭で2～3つ新出漢字を習う。
- (2) 担当する子は、新出漢字を説明する。
 - ① 音読み、訓読み、部首
 - ② 気を付けるポイント
 - ③ 熟語（構成、短文作り等も）
 - ④ 書き順確認（全体で空書き1回）

【新出漢字の学習の流れの例】

国語の授業開きで、一人一人が先生となって新出漢字を説明することを伝え、具体的な学習の流れを確認する。子どもたちは、自分が担当する新出漢字について、漢字辞典やインターネットを使い、家庭学習として事前に調べておく。授業で自分の番になったら、全体の場で説明をする。みんなに説明するという役割があることで、責任をもって調べるようになっていくと思われる。

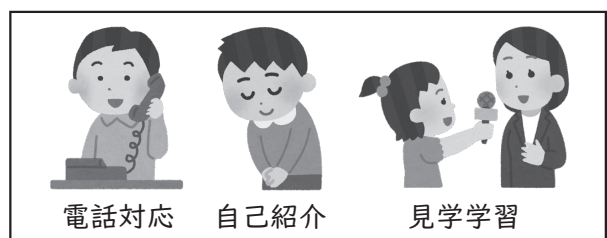
慣れてきたら、「熟語の構成を説明する」や「漢字の成り立ちを説明する」といった条件を加えたり、熟語を使った短文を考えて紹介したりする。意味や使い方を調べ、説明する時間を設定することで、単なる暗記にとどまらず、実生活に役立つことを意識した学びが進む。

2 実生活を意識した敬語の学習

敬語の学習は、プリントなどを使い、尊敬語を謙譲語にするなどの学習に重きをおきがちになる。しかし、断片的な知識として身に付けても、実生活において使い方を誤るケースが見られる。重要なのは、正しい使い方を習得し、実生活で活用できるようにすることだと考える。そのため、ロールプレイの手法を用いた役割演技の学習を行うことで、学びが深まり、実生活でも正しく活用できる力になるであろう。

- (1) 実生活で敬語を使う場面を考え合う。
- (2) 1つの場面を取り上げ、考えられる会話内容を全体で確認し、敬語での会話をロールプレイで行う。
- (3) グループで1つの場面を選び、ロールプレイを行う。

【ロールプレイの進め方の例】



【ロールプレイの場面例】



POINT 1

態度

導入における意欲を高める学習問題の設定の工夫

子どもたちの疑問から単元のゴールを見通した学習問題を設定することで、主体的に学びに向かう態度を高めることができる。

主体的に学びに向かうためには、子どもたちが感じた疑問を適切に取り上げ、学習問題として設定することが重要になる。子どもたちから出される「なぜ」や「調べてみたい」という思いから学習計画を作成していくことで、主体的に学びに向かう態度を高めることができると考えられる。

「あたたかい土地の暮らし」の学習では、はじめに「沖縄県について知っていること」「北海道と似ていること」「北海道と違うこと」について考える活動を行った。子どもたちからは、3つの意見が出され、そこから学習問題につながる疑問が生まれた。

- 1 沖縄県には独自の文化があること
- 2 北海道では育てられていない作物があること
- 3 観光地として北海道とは別の魅力があること



なぜ私たちの暮らす北海道と違うのか？

そこで、子どもたちの疑問を解決するために、「あたたかい気候」や「沖縄県の位置」などの視点か

ら考えることとし、学習問題の設定につなげた。

5学年では、日本の国土の地理的環境の特色や産業の現状について、国民生活との関連を踏まえて理解することが求められる。しかし、3、4学年で学んだ地域から、国内外へと学習範囲が広がるため、子どもによっては自分の身近ではない地域をイメージすることが難しく、学習の見通しをもてないことがある。

そこで、単元の導入で自分の住んでいる地域と比較する活動を取り入れることで、自分の生活と関連させながら、考える視点を明確にすることができるであろう。

このように、子どもたちのこれまでの経験や知識、教科書の写真やグラフなどの資料から、「なぜ」「調べてみたい」を引き出すことで、単元のゴールまでを見通した学習問題の設定につながり、主体的に学習に取り組む態度をより一層育てていくことができるのではないだろうか。

5/6 あたたかい土地の暮らし

課題

沖縄県について知っていることを出し、北海道と比べて、学習計画を立てよう。

北海道との大きな違い

↓

気候・面積

沖縄県といえば…

首里城 三味線 エイサー スティック ⇒ 伝統文化

魚 (ゴバクメダイ) けく 亀 ⇒ 自然 防災

海 台風 家のつくり

サトウキビ シークワサー ゴーヤ パパイヤ スーパース ⇒ 産業(観光業 農業)

美ら海水族館 野球キャップ 島

【「あたたかい土地の暮らし」の導入での板書例】

深い学びにつながる学習過程の工夫

音更町立緑陽台小学校 教諭 矢野 一樹



小学校3学年

小学校5学年

中学校1学年

POINT 2

思・判・表

深い学びにつながる学習過程の工夫

ジグソー学習の手法を取り入れ、問題の解決をするための学習過程を工夫することで、学びを深めることができる。

前述した「あたたかい土地の暮らし」の学習では、「沖縄県の人々は、あたたかい気候をどのようにくらしや産業に生かしているのか」という学習問題を設定し、「産業（農業や観光業）」「自然・防災」「伝統や文化」という3つの観点から調べ学習を行った。

今回は、ジグソー学習の手法を一部取り入れた学習活動を紹介したい。

1 役割分担

グループ内で、「産業（農業や観光業）」「自然・防災」「伝統や文化」の3つの観点のうち、できるだけ自分の興味があるテーマとなるように分担を決める。

2 テーマを分担した調べ学習

同じテーマの友達と調べ学習を行う。教科書、資料集、インターネット等の資料を活用し、分かったことや考えたことをノートにメモする。友達と情報交換をしながら学習を進めることで、多様な視点から情報を得ることができ、課題解決に向けた協働的な学びにもつながると考えられる。



【調べ学習の様子】

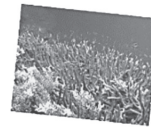
3 Google Slides を活用した調べ学習のまとめ 相手に伝わりやすいように内容や提示する資料を精選し、スライドにまとめる。

沖縄のお家って？

高い気温や湿度をしのぐために、戸を広くとって家の中の風通しをよくしています。

台風の被害を防ぐために、瓦の屋根で、サンゴの石垣で家を囲んでいます。

今は、コンクリートのお家もあります。



【子どもが作成したスライドの一部】

4 グループ内での交流

お互いに調べたことを発表したり、質問し合ったりして、分かったことや考えたことをノートに書く。

5 単元の学習問題に対するまとめ

調べた内容を基に、沖縄県の人々があたたかい気候をどのようにくらしや産業に生かしているのかまとめる。

調べる内容を分担することで、それぞれの内容についてじっくり考える様子が見られた。また、スライドにまとめることで、情報を取捨選択したり、必要な資料を精選したりするなど、単元での学びを相手に伝わりやすいように工夫して表現する姿が見られた。

このように、問題の解決をするための学習過程を工夫することで、思考力、判断力、表現力等が向上し、深い学びにつながるのではないかと考える。

算数

教科書問題を少しアレンジ！考え表現する

POINT 1

思・判・表

比較する場面を設け、思考力、判断力、表現力等の育成を図る

場面設定を工夫し、相手意識をもたせ、自分の言葉で筋道を立てて考えを説明することで、算数科に必要な思考力、判断力、表現力等を育てていく。

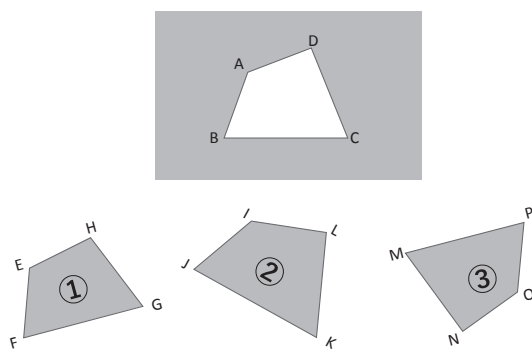
図形領域の学習では、図形を構成する要素やその関係に着目して考察することにより、思考力、判断力、表現力等の育成を目指している。

授業においては、子どもたちが自ら進んで学ぶ中で、様々な図形の構成要素やその関係、性質や条件を見付け、筋道を立てて考え説明できるようになることが大切だと考える。

5学年の「合同な図形」では、教科書は2つの合同な図形を使って対応する辺の長さや角の大きさに注目させて、合同な図形の特徴をまとめている。そこで、「先生からの挑戦状！パズルの最後の1ピースはどれだ？」という問題を設定した。3つの図形の中から自分たちで合同な図形を見付け、「なぜこの図形が空いている場所にぴったり当てはまるのか」を説明する活動を通して、合同な図形の条件を見いだし、思考力、判断力、表現力等を育むことができると考えた。

本時で使用したの右のワークシートは、3つの図形から合同な図形を1つ選ぶ問題だが、見た目だけで③が合同な図形だと判断する子もい

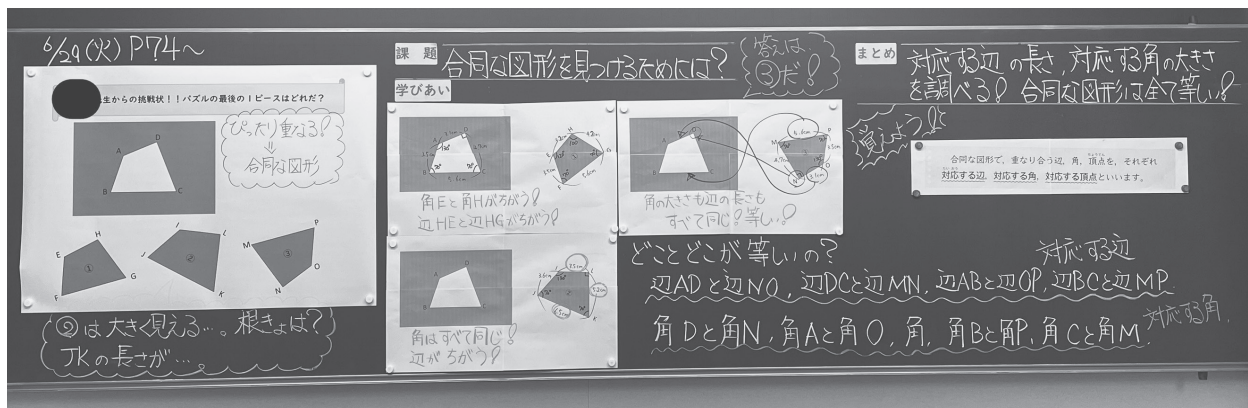
先生からの挑戦状！パズルの最後の1ピースはどれだ？



【ワークシートの例】

るだろう。そこで「なぜ③だと思うの？」「根拠はどこ？」と図形の中にある辺の長さや角の大きさに注目しながら、子どもたちの言葉で説明させていきたい。

このように、教科書の問題を少しアレンジし、説明する活動を取り入れることで、思考力、判断力、表現力等を育むことができるだろう。



【授業板書例】

力と意欲を高める授業づくりの工夫

広尾町立広尾小学校 教諭 菅 好基



POINT 2

知・技

ゲーム感覚で計算力と分数の大きさの感覚を養う工夫

教科書の練習問題にゲーム要素を取り入れることで、子どもが苦手な計算問題も夢中になって取り組むことができる。

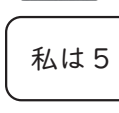
5学年の算数では、「分数と小数、整数の関係」の単元の中で、「分子÷分母」の計算から分数を小数で表す方法を考える問題がある。この問題を解くためには、「分子を分母でわる」という考え方の理解に加え、わり算の計算力が身に付いている必要がある。しかし、子どもたちの中には、わり算に苦手意識をもっている子も少なくない。そこで、教科書の問題を少し工夫することで、分数を小数で表すための知識と基礎的なわり算の技能を身に付けることができるのではないかと考える。

「大きい分数対決！」

1、2、3、4、5、6、7、8、9のカードの中から2枚引きます。引いたカードで分数をつくり、大きさを比べましょう。



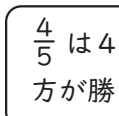
ぼくは6と3を引いたから $\frac{3}{6}$



私は5と4を引いたから $\frac{4}{5}$



$\frac{3}{6}$ は $3 \div 6$ だから0.5だ！



$\frac{4}{5}$ は $4 \div 5$ だから0.8で私の方が勝ちね！

友達と交流しながらゲーム感覚で取り組むことで、わり算の計算を繰り返していく。また、引いたカードを、自分で分母か分子のどちらに

当てはめるか決めさせると、「分子>分母となる分数は、1よりも大きい」という既習事項の復習にもなるだろう。支援が必要な子どもは、電卓を使って取り組むなどの指導の個別化を図ることも必要だと考えられる。

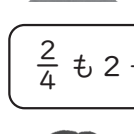
また、次のような活動も知識や技能の定着につながるであろう。

「0.5になる分数をつくろう！」

1、2、3、4、5、6、7、8、9のカードの中から2枚選んで、分子÷分母=0.5になる分数を探しましょう！



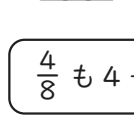
$\frac{1}{2}$ は $1 \div 2$ だから0.5だ！



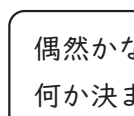
$\frac{2}{4}$ も $2 \div 4$ で0.5だよ。



$\frac{3}{6}$ も $3 \div 6$ で0.5だよ。



$\frac{4}{8}$ も $4 \div 8$ で0.5だよ。



偶然かな？もしかしたら、何か決まりがあるのかも！

このように、練習問題に少しゲームの要素を盛り込むことで、子どもたちが夢中になって意欲的に学習することが可能となる。



POINT 1

知・技

共同編集機能で観察・実験に向けた技能を身に付ける工夫

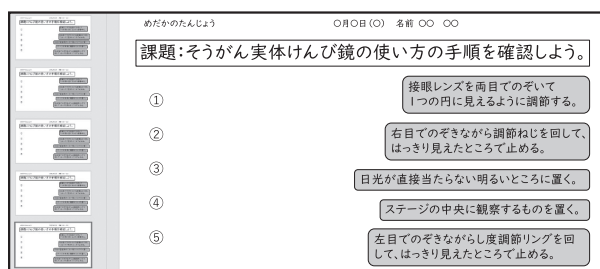
タブレット端末を利用した共同編集機能を有効活用することで、一人一人が観察・実験に向けた器具や機器の操作技能を確実に身に付けることが可能となる。

新型コロナウイルス感染症の影響が続き、非接触型の授業構築に頭を悩ませる日々が続いている中、GIGAスクール構想によりタブレット端末が導入され、協働的な学びの実現性が高まった。他者と協働していくことは、知識及び技能の確実な定着につながると考えられる。

理科では、問題を見だし、予想や仮説を基に観察・実験などを行っていくが、現段階では大人数での実験は難しい。そこで、ICT機器やタブレット端末を利用して学習を進めることで、問題解決の力が養われ、自分の学びを確かめることができるであろう。今回は、Teamsの共同編集機能を使い、双眼実体顕微鏡の使い方の確認からメダカの卵の観察までの学習活動を例に挙げて、観察・実験を行う上で必要な基礎的・基本的な技能の習得を目指した実践を行った。

1 作業用ワークシートを説明する

メダカの卵の観察をするために、双眼実体顕微鏡の使い方の手順を確認していく。ワークシートには、手順のカードがランダムに並べられており、子どもたちが実際に操作して正しく並べ替えることができるようになっている。

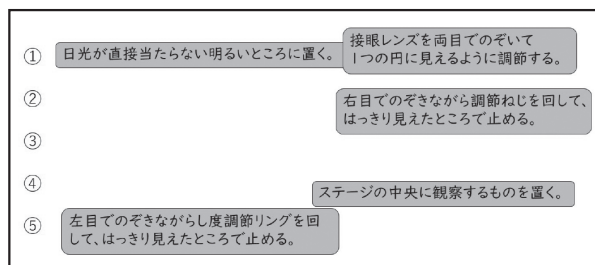


【作業用ワークシート例と共同編集機能画面】

2 双眼実体顕微鏡の使い方の手順を確認する

双眼実体顕微鏡の使い方を実際に並べ替えた後、全体で手順の確認を行う。共同編集機能により、お互いの考えを見比べ、確認し合うことで、双眼実体顕微鏡の操作技能を確実に身に付けることが可能となるであろう。

また、この学習は、観察の計画を立てる場面や、実際に観察を行う直前など、教師のねらいと子どもの実態に応じたタイミングで取り組むことができると考えられる。



【双眼実体顕微鏡の使い方の手順を並べ替える様子】

3 観察を通して基本的な技能に結び付ける

双眼実体顕微鏡の使い方を知識として身に付けた上で、観察を通して基本的な技能に結び付ける必要がある。そこで、少人数でメダカの卵の観察を行い、知識が技能に結び付いているか確認した。すると、スムーズに観察を行う子どもの姿が見られ、一人一人に基本的な技能が身に付いていることが実感できた。

また、一人一人が器具や機器の使い方を確実に身に付けることは、理科に必要な資質・能力の育成につながると考えられる。

を目指した協働的な学びの充実

足寄町立芽登小学校 教諭 中川 一輝



小学校3学年

小学校5学年

中学校1学年

POINT 2

思・判・表

クラス全員の記述で学びを深める授業展開の工夫

ICT機器を有効活用することでお互いの考えが閲覧可能になる。予想を立て考えを比較することで、協働的な学びになる。さらに、実験に生かすことで、深い理解につながる。

理科の学習では、実験結果を基に考察し、表現する能力が求められている。

そこで、実験結果から考察した個別の考えをTeamsのワークシートに書き、他者と考えをタイムリーに交流することで、自分の学びを確かなものにすることができるのではないだろうか。

これらを繰り返し行うことで思考力、判断力、表現力等を身に付けることができる考える。

そこで、探究的な課題を位置付け、共同編集機能を利用した子ども同士の協働的な学びを目指した次のような実践を行った。

1 ワークシートに予想を記入する

【作業用ワークシート例】

ワークシートは、ページ数を追加することができ、学習を進めながら、予想→結果の整理→考察→結論という問題解決の過程を1つのデータにまとめることができる。

2 子ども同士で考えを比較する

Teamsでは、子どもの取組が画面上で共有されている。そのため、自分の考えと友達のことを比較検討することができ、友達の考えを自分

の考えに加味することができる。また、自分や友達の考えを比較することで、よりよい解決の方法にたどり着くことが可能になるのではないだろうか。



【考えの比較による思考の変容】

3 協働的な学びを実験に生かす

協働的な学びにより、根拠のある予想を立てた子どもたちは、解決の方法を発想し、実験に取り組むことができた。また、結果の整理の場面では、キーワードを用いて表現したり、表や動画などを挿入して結果をまとめたりした。表や実験の撮影動画を取り入れることで、新たな視点に気づき、深い理解につながると考えられる。

このように、共同編集機能は、思考力、判断力、表現力等を養う上で有効な手段であろう。



POINT 1

思・判・表

目的や場面、状況などに応じた言語活動の設定

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた言語活動を設定することで、生きた英語として活用することができる。

小学校5学年及び6学年の思考力、判断力、表現力等の育成には、学習指導要領にあるように、目的や場面、状況などを踏まえた言語活動を設定していくことが不可欠となる。相手に伝えるために、どのような言語材料を選択し、どのような構成にすれば相手によりよく伝わるのかを考えることが大切になってくるだろう。

そのために、言語活動の設定において、相手意識をもたせる、進んでコミュニケーションを図りたいと思うような興味関心のある題材を選択する、伝え合う目的や必然性のある場面でのコミュニケーションを図る、ことを意識していきたい。今回は、「話すこと [やり取り]」の領域における実践を紹介する。

1 ワークシートの工夫

友達と（相手意識）、「Who am I クイズ」をするために（目的意識）、できることを尋ね合う言語活動を行った。子どもたちは、簡単な質問内容で、短い会話に取り組む。ワークシートに文例を示すことで、子どもたちは安心感をもって活動に取り組むことができるであろう。

Activity: Who am I クイズをするために、友達のできることについて尋ね合おう。						
What can you do?		I can _____.				
①自分のできることを選んで○をしよう。(2こ)						
②インタビューして友達のできることに○をしよう。できることが同じ友達にはサインをもらおう。						
I can	swim	run	jump	ride a unicycle	play soccer	
NAME						
Me (自分)		○				
例) 山田さん		○				

【インタビュー活動におけるワークシートの例】

2 会話を広げるリアクションスキル

会話のやり取りをするためには、既習の語句や表現を使用して会話を広げる必要がある。日常会話では、相手の言ったことに対して相づちを打ったり、聞き直したりするなど、様々な反応が大切だとされる。外国語も同様に、リアクションを取りながら、より自然な会話となるように意識させていきたい。

相手と会話を続けるためには、「反応する」「質問する」「意見を言う」「付け加える」などがあるが、中には質問や答えをすぐに言えない場合があるだろう。そこで、会話を続けるためのフレーズを掲示物などで目に残してはどうだろうか。または、フレーズをいくつか掲示し、「今日はこれを意識して使ってみよう」と重点的に取り組むのもよいであろう。例えば、「Nice talking with you!」を会話の最後に言おう」といったことが挙げられる。

Really?	Nice!	Me, too.	Wow!
Cool!	Good!	Wonderful!	Great!

【リアクションの例】

外国語の学習のメインは、やはり「人とコミュニケーションを図る」ことだと考える。ただ言えるようになればよいというものではなく、実際に生きた英語として活用できるようにすることが必要であろう。そのために、友達と関わることを意識したり、相手に自分の考えを伝えようとしたりする姿勢を大切にしていきたい。

育成を目指した指導と評価の工夫

音更町立木野東小学校 教諭 杉村 萌



POINT 2 態度

CAN-DOリストを活用したゴールの共有と振り返りの工夫

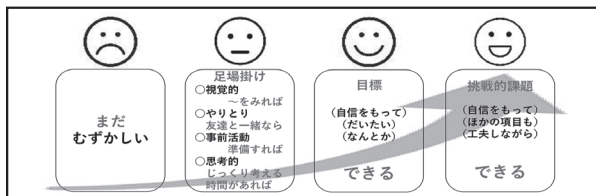
教師と子どもがゴールを共有し、学習への見通しをもち、学習を振り返ることで、主体的な学びを引き出すことができる。

「主体的に学習に取り組む態度」における評価では、「粘り強い取組」と「自らの学習の調整」を見取ることが求められている。

今回は、学習の達成度を表す基準を示し、見通しをもたせた学習活動における、振り返りシートを活用した実践を紹介したい。

1 4段階で示した達成度の提示

Today's goal を提示し、教師と子どもがゴールを共有する。その際、達成度を4段階で示し、子どもが目標をもって学習に臨むことができるようにする。



【本時の目標の達成度を表す基準例】

2 授業の活動と振り返りシートの連携

より具体的な振り返りにするために、Today's goal と関連付けた問いかけの工夫が考えられる。例えば、Today's goal が達成できた子には何がよかったのか、また、達成できなかった子にはこれからどうしていきたいかを問う。振り返りシートから、子どもの学習状況を把握し、授業改善へつなげることができる。と考える。

Date	時間	本時の目標 Today's Goal	達成度 (○を付ける)	できたことや新しく知ったこと、 次にかんばりたいことなど
9/6	1	できること言い方を、 矢口う。	⊗ ⊗ ⊗ ⊗	できること言い方をあげて、 うれしい
9/7	2	Iconic Iconicの表現に慣れよう。	⊗ ⊗ ⊗ ⊗	アイコンとアイコンの組み合わせに慣れよう。

【振り返りシートの例】

3 CAN-DOリストとループリックの活用

単元の学習を通して「英語を用いて何ができるようになるか」を明確にするために、次の2つが重要だと考える。

- (1) CAN-DOリストで、子どもと教師がゴールを共有し、学習への見通しをもつ。
- (2) パフォーマンステストなどで学習を評価する（振り返る）際に、子どもとループリックの共有をする。

これにより、学習を進めていく上で具体的な目標をもって学習に臨んだり、次に目指すレベルをループリックを基に設定したりすることができる。つまり、毎時間子ども自身が今の自分の理解度と照らし合わせながら学習に取り組むことができると考えられる。

また、適切な学習と指導の改善のために、子どもとループリックを共有することで、教師の評価と子どもの自己評価のずれを小さくし、評価の客観性を保つことができると考える。教師にとっても子どもの学習状況を客観的に把握することができるであろう。

ループリック（話すこと[やり取り]）		
	発表内容	発表に向かう姿勢
A	① あいさつ ② 名前 ③ 行きたい都道府県 ④ したいこと ⑤ できること ⑥ お礼	① 笑顔 ② 目線 ③ 聞こえやすい速さ ④ 相手に聞こえる声 ①～④を全て意識し、やり取り
B	①～⑥を全て伝え合っている。Aの内容のうち、4～5つ伝え合っている。	①～④を全て意識し、やり取り Aの内容のうち、2～3つ意識している。
C	Aの内容のうち、1～3つ伝え合っている。	Aの内容のうち、1つ意識している。

【ループリックの評価基準例】